



ID: 1122

科目名	地域文化Ⅱ【26年度生用】			コード			
英語表記	Region and CultureⅡ						
担当教員名	樋口 崇之			年度	平成26年度		
基準年次	1年次	開講期	後期		単位数		
授業形態	講義	授業形式			履修形態		
授業概要							
地域文化を考える上で、そこにある資源をどのように活用しているか、あるいはしてきたかということは重要な手がかりである。地域に所在する様々な資源について学んでいく。資源という言葉から生産にかかわるものだけと思われがちであるが、人間活動の中にも資源を見出すことができる。そこには文化の影響も多く存在している。それらをふまえ地域文化を考えていく。							
到達目標							
地域と資源の概念を理解する。地域と資源の関係性を理解する。身近な地域社会に関心を持つ。							
授業計画							
第1回	地域社会と資源(1) イントロダクション、地域社会における資源とは。						
第2回	地域社会と資源(2) 地域資源の理解と考え方。						
第3回	歴史からみる資源(1) 史料の見方。						
第4回	歴史からみる資源(2) 伝統文化と近代文明。						
第5回	地域資源の管理(1) 資源の利用と地域社会のかかわり。						
第6回	地域資源の管理(2) 資源の保全・保護と地域社会のかかわり。						
第7回	地域資源と地域政策(1) 地域振興のしくみについて。						
第8回	地域資源と地域政策(2) 地域振興と受容する地域の課題。						
第9回	人と自然のつながり(1) 生業と自然。						
第10回	人と自然のつながり(2) 資源利用と自然環境の共存。						
第11回	生産活動の課題(1) 生産活動の地域差						
第12回	生産活動の課題(2) 生産活動の文化的差異。						
第13回	地域の担い手(1) 誰が地域社会を担うのか。						
第14回	地域の担い手(2) 地域社会を担う枠組みと具体的事例。						
第15回	まとめ						
評価方法と基準			評価項目と割合(%)				
開講時に指示する。履修者及び履修予定者は最初の講義には必ず出席のこと。			出席	授業態度	レポート	期末試験	その他
			10%	30%	0%	50%	10%
授業外学習			テキスト、教材				
予めテキストの対象範囲を通読しておくこと。日常的に新聞、雑誌、Web等で地域に関する情報に接すること。			『むらの資源を研究する—フィールドからの発想—』日本村落研究学会編 農山漁村文化協会 2007				
参考書			受講生へのメッセージ				
『新詳高等地図』帝国書院編集部編 帝国書院 等の地図帳を参考文献として指定する。			講義の維持に支障となるふるまいは認めません。講義の形成に積極的な参加を求めます。				
キーワード							
地域社会 資源利用 環境保全 地域振興 担い手							